

出版記念シンポジウム「交通まちづくり —地方都市からの挑戦—」

「暮らしやすいまち」、「自慢できるまち」、「住み続けたいまち」の実現に交通計画がどう貢献できるか——。私たちは2007年から2014年までの7年間にわたり、土木学会土木計画学研究委員会に設置された研究小委員会のもと、まちづくりに貢献する交通計画「交通まちづくり」の研究と実践に取り組んできました。この7月、その成果をまとめた書籍『交通まちづくり —地方都市からの挑戦—』（原田昇編著、鹿島出版会）が出版されるのを機に、シンポジウムを開催いたします。

セッション1のテーマは立地適正化計画・地域公共交通網形成計画です。昨年制度化されたこれらの計画は、交通と土地利用の連携に新たな道を拓くものです。本セッションでは制度設計、ビジョン構築、調査体系の3つの側面から、新たな計画制度のもとでの交通まちづくりのあり方を考えます。

セッション2では、本書で紹介している中から5つの都市の交通まちづくり事例を振り返るとともに、そこから他のまちが、そして未来に向けて何を学ぶことができるかを議論します。

■開催概要

日時：2015年7月5日（日）13:00-16:25

会場：東京大学工学部 14号館 141 講義室

（地図 http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_15_j.html）

参加費：2,000円（書籍「交通まちづくり」代金を含む；当日申し受けます）

■プログラム（敬称略、講演題目は変更の場合があります）

13:00-13:05 開会・趣旨説明 高見淳史（東京大学）

13:05-13:35 基調講演「交通まちづくり原論」 原田昇（東京大学）

13:35-14:50 セッション1：「立地適正化計画」時代の交通まちづくり

オーガナイザー：藤原章正（広島大学）

コメンテーター：菊池雅彦（国土交通省）

講演：□新しい計画制度への期待と課題 谷口 守（筑波大学）

□計画への合意をどう形成するか 高山純一（金沢大学）

□求められる調査・分析のあり方 溝上章志（熊本大学）

15:05-16:20 セッション2：事例から学ぶ交通まちづくり

オーガナイザー：羽藤英二（東京大学）

コメンテーター：須永大介（計量計画研究所）

講演：□宇都宮市—ネットワーク型コンパクトシティ 森本章倫（早稲田大学）

□京都市—「歩くまち・京都」の試みと実践 土井 勉（大阪大学／システム科学研究所）

□恵那市・明知鉄道—公共交流機関としてのローカル鉄道の価値と地域と連携したデザイン 佐々木葉（早稲田大学）

□由布市—交通実験実施から13年、由布院の観光まちづくりと交通まちづくり 米田誠司（愛媛大学）

□平泉町—世界遺産平泉の交通まちづくり 西山良孝（計量計画研究所）

16:20-16:25 閉会の挨拶 原田 昇

■参加申込

参加ご希望の方は下記のフォームにお名前・ご所属・メールアドレスを記載のうえ、申込先メールアドレス（km_sympo@ut.t.u-tokyo.ac.jp）まで送信してください。